

1 部

学習サポート

5 / 10 ~ 6 / 10 の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着をお願いいたします。

(注) 備考欄の『レポート課題集』参照ページについては、『試験・スクーリング 情報ブック2014』1部に記載の変更内容も併せてご確認ください。

■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
6月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	5月28日(水)
夏期スクーリングⅠ (6/6~6/15)	申込みハガキ	5月15日(木)
夏期スクーリングⅡ (6/21~7/13)	申込みハガキ	5月29日(木)
オンデマンド・スクーリング	申込みメール	5月19日(月)正午 ほか本冊子 p. 36 表参照
特講・社会福祉学5・6 履修登録・受講申込み	申込用紙 (『With』98号巻末)	5月13日(火)
5月在宅web科目修了試験	レポート・ 申込メール	5月15日(木)正午

	受付日
<p>レポート</p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	<p>5月20日(火) 5月29日(木) 6月10日(火)</p>

※「スクーリング受講者専用別レポート」締切：(郵送) 受講後1カ月以内
(オンデマンド) 5部参照

■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締切日	備考
<p>★■社会福祉援助技術演習A・◆演習I スクーリング受講申込ハガキ (『With』98号巻末申込ハガキ)</p> <p>※受講判定日(5/31or 6/15or 6/30)までの条件達成も必要。</p>	<p>6～7月受講希望者 →5月31日(土)</p>	<p>『レポート課題集 2014(社会福祉編)』 「★■演習A」 p. 133～137 「◆演習I」 p. 187～191</p>

■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締切日	備考
<p>■精神保健福祉援助演習A 1単位めレポート (スクーリング事前レポート)</p>	<p>6・7月受講希望者 →5月31日(土)</p>	<p>(注) 『レポート課題集 2014(社会福祉編)』 「■演習A」 p. 237～240</p>
<p>■精神保健福祉援助実習指導B 課題1-① (実習計画(案))</p>	<p>6/7・8受講希望者 (初回提出締切) →5月10日(土)</p>	<p>「■指導B」 p. 254～257 +『試験・スクーリン グ情報ブック2014』 p. 38～40</p>

■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締 切 日	備 考
教育実習・障害者(児)教育実習誓約書・健康診断書（・個人調査票のコピー）提出	7月実習開始者 →5月15日(木)	※事前指導受講済者のみ対象
障害者教育実習の事前・事後指導事前指導スクーリング受講免除希望届	8/2・3受講免除希望者 →5月25日(日)	(※) 『レポート課題集2014(心理・教職編)』 「障害者教育実習」 p. 254～259 「介護実習」 p. 161～168 +『試験・スクーリング情報ブック2014』 p. 42
介護実習事前事後指導スクーリング受講申込み(『レポート課題集2014(心理・教職編)』巻末の「 <u>介護実習登録カード</u> 」を提出)	7/19～21受講希望者 →6月10日(火)	

地域を知ろう

通信教育部副部長・教授 三浦 剛

教員 MESSAGE

今、「地域」がキーワードです。

震災によって壊されてしまった地域を再建しよう、移住を余儀なくされ、新しい地域を作ろう、そういったことだけではなく、日本全体の極端な人口の高齢化は、都市への人口の集中、過疎化の進行を背景にして、見守りシステムやサービス供給システムなども包括した「地域」のありかたを考えることを求めています。

東北福祉大学も Center of Community として、大学が地域にどのような役割を果たすべきか、大学全体で取り組んでいます。

さて、では、どのような地域が求められているのでしょうか。

新しい地域には、地域住民やサービス提供者の帰属意識、自主的な運営、目的・関心・価値の共有、相互作用 があることが必要といわれています。それは、人口の高齢化とは別に、ワーク・ライフバランスの実現、「物から人へ」ヒューマン・サービスへの転換、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）理念の漸進などから求められるようになったものであり、情報通信技術、双方向コミュニケーションの発達によって後押しされています。

そもそも community の語源は「一緒に貢献すること、一緒に任務を果たすこと」といわれています。住民が主体的にかかわるまち、共に生きるまちのことです。私たちもこれからは、そのような新しいまちを目指して、地域にかかわらなければならないのです。

ソーシャルワークはどうしても「人」にかかわるというイメージが強く

あります。しかし、本来は、人が変化することによって環境も変化する、環境の変化によって人もまた変化し、それによって環境が・・・と円環的に交互作用が続いていくプロセスであることにもっと着目しなくてはなりません。

支援計画を立てるとき、その「人」のアセスメントは一生懸命やりますが、「地域」のアセスメントには多くの注意は払われず、資源マップやリストのようなものを書いておしまいということが多いように思います。サービス利用者への支援によって、地域の何が変わったのか、地域が変わったことによって利用者がどう変わったのか、このような評価の視点もまた必要です。一利用者への支援によって、どんな社会資源が活用、開発されるのか、社会資源が活用、開発され、地域づくりや制度化が進んだことによって、利用者への支援はどのように進んだのか、ミクロからマクロへの連続を意識しなくてはならないでしょう。

地域を知るには、やはり、地域とかわからなくてはなりません。実際に出向いて、まちの人たちの意識やシステムやネットワーク、要するに相互作用がどうなっているのかを知らなくてはならないと思います。社会福祉実習の事前学習でも、施設・機関がサービスの提供範囲としている地域などについて、具体的には小学校区、中学校区かも知れませんが、実際に出向いて、関係者にかかわって調べてみるとよいと思います。地域に関するアセスメント・シートもいくつか開発されています。

また、帰属意識、最近、シビック・プライドということばもよく聞きますが、そのような意識はどうしたら形成でき、また維持、増強できるのでしょうか？そのような研究も進められています。

ともかく、専門職としてもそうですが、一住民としても、ソーシャル・インクルージョンの実現やヒューマニティーといった価値観にもとづき、地域への帰属意識を高めながら、「地域に何かしたい」という主体的、自

発的な意思を持つことが大切なのではないでしょうか。

みなさんはどれだけ地域にかかわっていますか？

心理学ワールド (Psychology World) へようこそ

教員 MESSAGE

教授 渡部 純夫

御入学おめでとうございます。そして、心理学ワールドへようこそいらしゃいました。ゲートを潜ってみた感じは如何なものだったでしょうか。これから皆さんの目の前には、新たな風景が展開していくこととなります。美しいものばかりではなく、ドロドロしたものにも遭遇するかも知れません。それでも臆することなく、自分を見失わないように心して、目の前の道を歩んでいただきたいと思います。それでは、心理学ワールドの入り口についてご案内しましょう。

【哲学から科学への道】

「心理学」という料理のレシピにおいては、最初食材・具材として人生や事物の究極のあり方や根本となる原理を理性的に追及する哲学という学問が選ばれました。そして、調味料には自然科学が選ばれました。論理的で、客観的で、普遍的な、混じりけのないはっきりとした味つけをしようとしたのでした。人間の心理についての解明を「心理学」は、哲学的思考に近代科学の手法を用いることで、学問としての体系化を成し遂げようとしたのです。この試みは一見成功するかに見えましたが、事はそう簡単ではありませんでした。一人ひとりの味覚が違うために、それぞれの好みに応じた食材・具材と調味料を調達し、料理方法もその食材・具材を生かすための工夫が求められることになったのです。皆さんがこれから学ぼうとする「心理学」では、今までにどのような食材・具材が使われてきたのか、それを使って行われてきた伝統的料理方法と味付けの調味料は何だったのかをまず知らなければなりません。その上で、新たな「心理学」の食材・

具材を見つけていかなければなりませんし、同時にそれに見合った料理方法と調味料も生み出していかなければなりません。街なかの大衆食堂における庶民的家庭料理の味を追求してもいいと思いますし、高級レストランの味を探求していくのもありだと思います。どちらにも共通していることは、人々が「心理学」という味わいを通して自分を見つめることができるということだと考えることができます。皆さんには人のために貢献できる「心理学」を日々努力しながら身に着けていただきたいと思います。

【「心理学」を学問する】

大学生としての学びは、教えられることをただ覚えることではありません。新しいことに出会うことで感動し疑問を持ち、それを解決するために、多くの文献等にあたり自ら進んで問題と取り組みながら新たな発見をしていくことにあります。そのための努力を惜しんではいけません。レポートを読んでいて、ときどき、専門書を写したり、教科書の部分部分を糊づけするように、接続詞でつないだだけのものに行き当たることがあります。これでは学問をしたことにはならないし、自分の成長のためにも決してプラスにはなりません。そこには、自らの問いと発見がないからです。皆さんには、ぜひ学問をすることの大変さと、それを越えたときに見つけ出せる喜びの両方を味わっていただきたいと思います。

【継続の難しさと大切さ】

通信で学ぶにあたっての大変さは、自分の心の中に住みつく「弱気の虫やあきらめの虫」とどう戦っていくかだろうと思います。普段はおとなしいのですが、頑張らなければならない状況下では、暴れ出したりします。なだめたりすかしたり、時には大喧嘩をしたりしながら付き合っていかな

ければならない相手だと思います。追い出すことはできませんから、名前をつけて、時にはえさを与えて、大人しくしているように手なずけておきましょう。皆さんがさぼりたいと思っているのではなく、虫のせいですから、自分を責める必要はなくなります。虫だけに時には無視しながら状況を乗り越え、続けられるようにしてください。レポートを書くにあたって、結果よりプロセスを大切に、自分の思考的展開を大切にしてください。それを繰り返していくことで、月日はあっという間に過ぎていくと思います。

3月の末に、卒業式が行われました。卒業する皆さんの晴れ晴れとした姿を目にした時、継続することの意味を改めて教えられました。

【通信で「心理学」を学ぶということ】

「心理学」では、実証性が必要になります。通信で「心理学」を学ぶためには、この実証性を、日常の中に見つけていかなければなりません。自分の身の回りで起こっていることに関心を向け続け、柔軟な感性を養っておくことが大切になります。理論的な「心理学」の側面と実証的な「心理学」の側面をうまく融合させながら、深みのあるものにしていただきたいと思います。

身体に気をつけながら、感性を豊かに育てていくことで、やわらかで強い気持ちを身につけることが出来ます。人に対する深い思いやりを持ちながら、一方で自分のペースを保ちつつ自己実現の歩みを続けていかれることを切に願っています。